

この通信を通じて、総合的な探究の時間や各授業・学校全体での探究活動への取り組みを皆さんにお知らせしていきます。

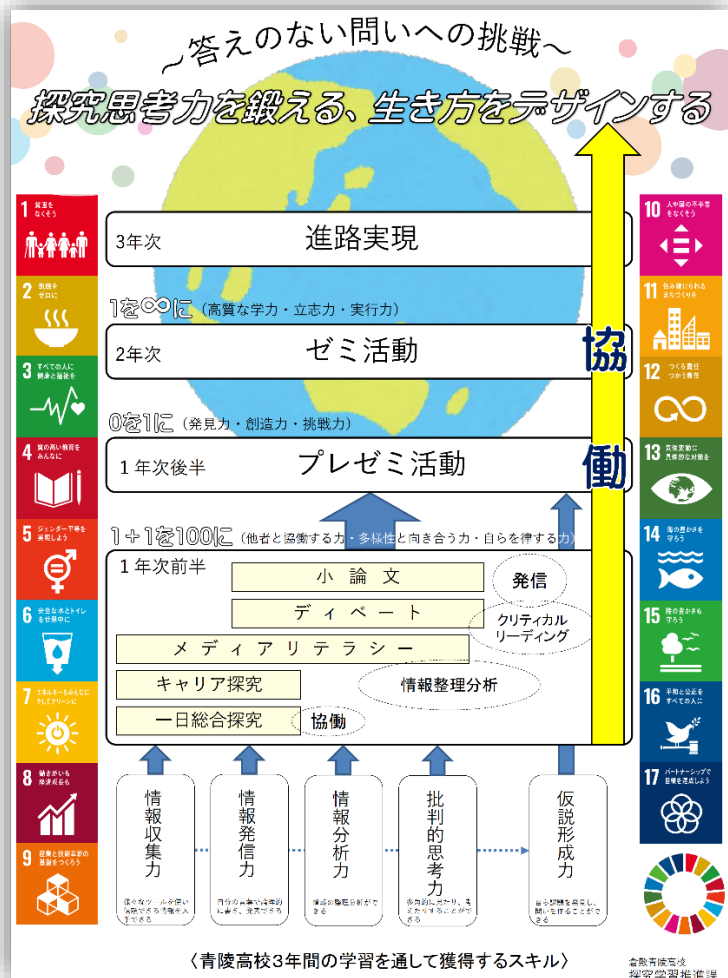
今年度も



青陵探究

友とともに考える
友とともに失敗を乗り越える
友とともに新しい発見

始まりました！



3年生

1・2年次の探究ゼミ活動で得たものを、総合型選抜入試・小論文・志望理由書など、実際の入試に役立てて進路実現につなげていきます。

2年生

1年3学期に行ったプレゼミ授業の反省点を生かして、本格的にゼミ活動に入ります。大きく3【領域】に分かれたのち、その中で自分の進路や興味を元に更に小さな【分野】に分かれ、3～5人のグループ探究活動を開始しました。テーマや仮説の設定にとても苦労しているようですが、今年度は積極的に各種コンテストに参加しようという動きも見られ、大変楽しみです。

1年生

最初の青陵探究の授業は、「オリエンテーション」と「紙幣で自己紹介」で始まりました。まず青陵探究2年間の活動がどのような力につながるのかを捉え、次に自己紹介プレゼンを通して「自己・仲間」を知り、今後の探究活動のための協働の基礎作りを行いました。発表についてもまずはアナログで情報整理・発信の注意点を意識してもらいました。さらに、今年度から1年生はクロームブックを各自1台所有しているの、「1日総合探究」からは、パソコンやクラウド利用した活動を多く行っています。特に、情報検索、意見共有、発表資料の作成と実際のプレゼンテーションなどの場面で有効に活用できている姿が見られました。また、昨年度はコロナ禍で実施することができなかった、4月の「1日総合探究」や、夏季休業中の「フューチャーウォッチング」などの行事も行うことができました。

1日総合探究

調べ学習

現地踏査

情報発信

共有

倉敷の「歴史」「文化」「産業」にちなんだキーワードから倉敷について調べ、それを実際に発見し、共有します。この作業の中で、情報収集、現地踏査、情報発信など、探究における基礎的な活動を体験します。生徒たちは自分たちの担当テーマに即して倉敷美観地区を散策して様々な発見をするとともに、新しい友人との交流や共同作業も楽しみ、今後の探究授業のベースとなる協働性を養うことができました。



午後からは、実際にクロームブックを使って共有や発表資料作成を行いました。まだまだクロームブックに慣れていない状態でしたが、「習うより慣れる」ということで、実際にデバイスを触りながら、「こんなふうにスライドが作れるんだ！」と互いに教えあひながらの作業となりました。面白い視点からまとめたグループもあれば、発表時にスライドをプロジェクタでスクリーンに映し出しながら、発表用の原稿はスマホで読み上げるなど、クロームブック・クラウドをうまく利用しながら発表できたグループもあったようです。



クラス発表で代表を決め、↑
体育館で全体発表↓



青陵探究 1日総合探究発表
2組 網本晴 川崎開彦 孤口早紀 中国日菜 村山優斗

い草屋花薙と
今につながる
い草の歴史



実際に生徒が作ったスライド↑→
(抜粋)



い草や花薙

倉敷には、昔から伝わるい草があります。倉敷に住む皆さんなら、い草について詳しいですね。

ここでクイズです

Q.い草の歴史は何年あるでしょう。

Q.い草生産量1位は何県でしょう。

Q.い草を使って作られているものは、なんでしょう。

全問正解できたでしょうか。い草について少しでも興味を持っていただけると嬉しいです。他にも、い草は様々な場所で使われています。ぜひ探してみてください。



青陵高校×SDGs

SDGs
理解

ジブン
ゴト化

問題
解決

まずは、SDGsを自分たちの身近な問題として認識するために、様々な新聞記事を読み、世の中の出来事とSDGsの17つの到達目標と関連付ける活動を行いました。この活動を通して、1つの事象にも様々なSDGsが関わりあっていることに気づき、多角的な視点から持続可能性を考えることの重要性を学びました。

次に、SDGsを自分の身近な生活の中で意識し社会問題に対する意識をジブンゴト化するために、青陵高校におけるSDGsの達成度と課題を考え、青陵高校SDGsマップを作成に取り掛かりました。コロナ禍でグループ活動に制限がある中、Jamboard等のクロームブックアプリを活用し、グループ内での意見の出し合いを活発に行いました（Jamboardを利用した授業の様子：右写真）。達成項目は緑色、課題項目については赤色のラミネートカードを作成し、校内に掲示することで、クラスの垣根を超えた情報共有や校内への啓発活動を行うことができました。

ジブンゴト化は2年のゼミ活動でもキーポイント！

校内における課題が明らかになったところで、それを実際に解決していく姿勢を養うため、課題解決に向けた学年アイデアコンペを開催しました。各班は自分たちの企画書をクロームブックのGoogleスライドで作成しましたが、授業内外で、スライドを協力して作成している様子が見られました。常識にとらわれない高校生らしい柔軟な発想で、創意工夫にあふれる提案を行っていました。

SDGsマップカード内容例（多かったもの）

4 質の高い教育をみんなに

達成：Chrome Book・質問しやすい先生・FW講座・iPad・図書館などにより質の高い教育が受けられる、奨学金制度有。

※特にChrome Bookについて記載が多い（声がクラス全体に届きやすくなった、自由に繰り返し見ることができるなど）

未達成：エレベーターがない、教室が狭い

12 つくる責任 つかう責任

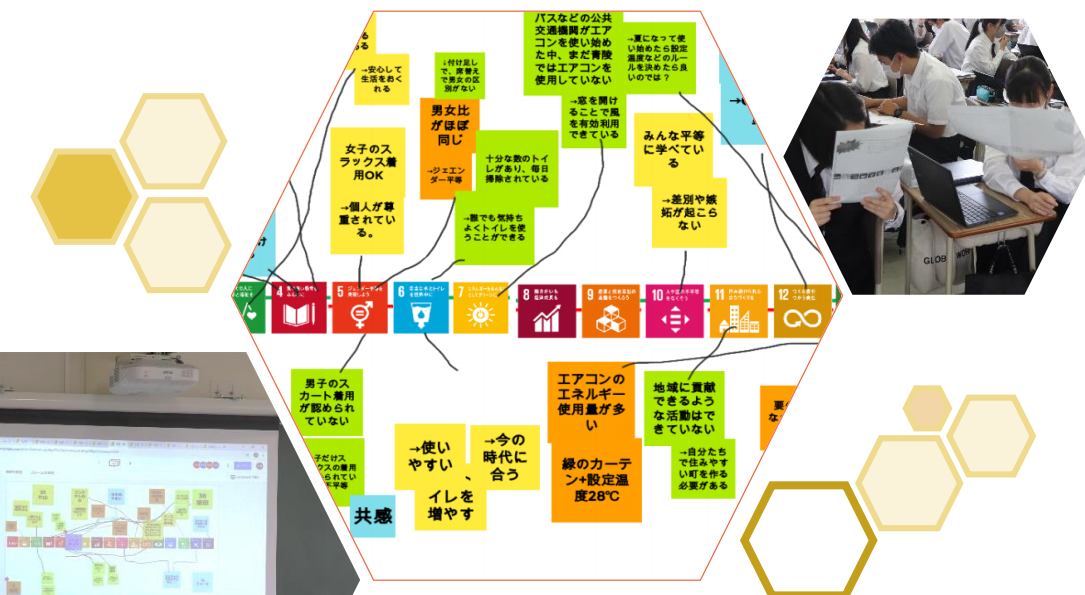
達成：ごみの分別リサイクルができていて、コンタクト容器の回収、テニスボールの活用、ごみ袋の再利用

未達成：使う紙の量が多い、落とし物が廃棄されている、食堂での食べ残し、購買の売れ残り、ごみ分別が不十分

15 陸の豊かさも守ろう

達成：ごみ分別、リサイクルの意識がある、校内の植物が大切にされている

未達成：紙の浪費



実際のアイデアコンペの企画書（抜粋）

青陵 SDGs 課題解決アイデアコンペ 企画書

1年(4)組(1)班 メンバー(吉村優奈) (森下結月) (浅野希望) (佐野文美)

現状(何がどう課題であるか)

雨が時々廊下に入ってくる
日の光や風を直で受けやすい
暑さを感じやすい

考えられる原因

廊下側...廊下に壁がない
室内...直射日光が当たる

解決アイデア

タイトル『緑のカーテン～きゅうりを添えて～』

緑のカーテンを作る

・緑のカーテンを作るためにきゅうりを植える
⇒日光をさえぎれ暑さ対策になる。また、雨などをしのぐこともできる。(気候変動に具体的な対策を)

きゅうりを育てることで責任感がつく。

植物を育てるため地球温暖化対策になる。(住み続けられる街づくりを、陸の豊かさも守ろう)

2 年生ゼミ活動



研究のためにこの夏休み期間に外部機関を訪問しているグループもあります。例えば、無農薬栽培に関する実態を知るために高松農業高校を訪問したり、こどもの病院受診の心理について知るために小児科病院を訪問するなどです。その他、研究の一環として個人的に史跡などを訪れる計画を立てている人々もいます。積極的に外部の専門機関とかかわってこうとする姿勢がさらに広がることを期待します。

3 領域から

2年生は1年3学期に行ったプレゼミで「探究活動とは？」「テーマ設定→問い作成→リサーチクエスト→仮説設定→調査・研究」の一連の流れを学び、2年ゼミ活動の準備をしてきました。4月にまず左記3領域（【人文・社会】【サイエンス・テクノロジー】【生活・健康・教育・人間】）に分かれたのち、より専門性を求めて分野を決めていきます。これが「ゼミ」で、生徒たちは自分の選んだゼミでグループを作り、研究テーマを決定していきます。

各分野へ

ブックレポート

1年生1学期の「青陵高校×SDGs」でやったように、「身の回りの課題」を意識してそれにどう向き合っていくかという視点が探究活動では必要になります。そのため、まずはその分野に関してどんな課題があるのか、それにかかわる先行研究はどんなものがあるか、だれがどういう立場で今対処しているのか、自分たちができることは何なのか...を考えていきましょう。

「課題解決」を意識して

コンテスト参加！

今年度は4月からスタートしていることもあり、様々なコンテストに参加するチャンスが例年以上にあります。先輩たちが参加してきたものをはじめ、今年度新たなコンテスト・発表会での挑戦をしている生徒もいます。



現在、【人文・社会】領域で〈地域〉分野を選んでいる2チームが、観光甲子園にエントリーしています。今年度のテーマは「SDGs 修学旅行部門」と「日本遺産部門」。予選を突破できれば動画作成をして決勝へ。予選突破はなかなか狭き門ですが、まずはチャレンジしてみようという姿勢が素晴らしい！ほかに、テーマが合わず見送った「キャリア甲子園」や、ビジネスモデルを競う「岡山イノベーションプロジェクト」をはじめ、分野を問わず学校での探究活動を発表する場はたくさん用意されています。ぜひ多くの皆さんに積極的に参加してほしいと思います。